



2019年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月9日

上場会社名 株式会社 フジオフードシステム
 コード番号 2752 URL <http://www.fujio-food.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤尾 政弘
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経営企画本部長 (氏名) 九鬼 祐一郎

TEL 06-6360-0304

四半期報告書提出予定日 2019年8月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第2四半期の連結業績(2019年1月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	18,726	6.9	861	26.9	836	28.1	359	39.7
2018年12月期第2四半期	17,517	0.2	1,177	0.9	1,163	2.0	596	5.3

(注) 包括利益 2019年12月期第2四半期 416百万円 (29.9%) 2018年12月期第2四半期 593百万円 (6.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	16.74	16.65
2018年12月期第2四半期	27.79	27.65

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第2四半期	26,186	9,483	36.2	440.10
2018年12月期	21,759	9,465	43.4	440.38

(参考) 自己資本 2019年12月期第2四半期 9,474百万円 2018年12月期 9,452百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期		0.00		22.00	22.00
2019年12月期		0.00			
2019年12月期(予想)				20.00	20.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2. 2018年12月期 期末配当金の内訳: 普通配当 20円00銭 東証第一部上場記念配当 2円00銭

3. 2019年12月期の連結業績予想(2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,100	10.9	2,500	10.7	2,420	10.5	1,185	29.9	55.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2019年12月期2Q	22,230,130 株	2018年12月期	22,166,130 株
-------------	--------------	-----------	--------------

期末自己株式数

2019年12月期2Q	701,616 株	2018年12月期	701,616 株
-------------	-----------	-----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2019年12月期2Q	21,487,759 株	2018年12月期2Q	21,453,538 株
-------------	--------------	-------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益、所得・雇用情勢の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移したものの、国際経済は、米中貿易摩擦の長期化による中国の景気減速等があり、景気の先行きが不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、慢性的な人手不足による人件費の上昇や原材料費の高騰、また、中食市場の伸長による影響もあり、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況の中、当社グループは、「大衆というカテゴリで日本一の外食企業となる」という確固たる目標のもと、既存事業の全体的な底上げを行うための商品開発、業態ごとの販売促進キャンペーン活動の強化、店舗におけるサービス力向上を図るための教育・研修体制の強化等を行い、「まいどおおきに食堂」を中心として、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」をはじめとする全業態の経営成績の向上に全社一丸となって取り組みました。また、新規出店については、収益力が向上している「さち福や」「えびのや」、「かつ満」などの大型商業施設内への積極的な展開と、立地を厳選した出店を行いました。

また、新たにグループ会社として、沖縄で展開するアメリカンスタイルのステーキレストラン「SAM'S (サムズ)」を経営する株式会社グレートイースタンを加えたことにより、当社グループの事業展開の幅を大きく広げました。

なお、2019年4月3日付で株式会社グレートイースタンの株式を全て取得し、当第2四半期連結会計期間より同社を連結の範囲に含めておりますが、みなし取得日を2019年3月31日としており、かつ、同社の決算期を3月から9月に変更したため、当第2四半期経営成績には同社の経営成績を含んでおりません。一方で、同社の株式取得関連費用として75百万円を当第2四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費に含めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高187億26百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益8億61百万円（前年同期比26.9%減）、経常利益8億36百万円（前年同期比28.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億59百万円（前年同期比39.7%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

<直営事業>

直営事業におきましては、国内及び海外において「まいどおおきに食堂」、「神楽食堂 串家物語」、「手作り居酒屋 かつぼうぎ」、「つるまる」等の事業展開を行っております。

「まいどおおきに食堂」を中心にテレビCMやクーポンアプリなどの積極的な販促活動、商品力強化のためのメニュー改善、店舗の改装等を実施し、全ブランドの既存店の経営成績の改善に努めてまいりました。

また、ビジネスモデルが確立し堅調に推移しているサブブランドの「さち福や」、「えびのや」、「かつ満」などの新規出店にも注力してまいりました。

以上の結果、直営事業全体の売上高は177億71百万円（前年同期比7.1%増）、セグメント利益は15億10百万円（前年同期比12.3%減）となりました。

<FC事業>

FC事業につきましては、当社トレーナーが各加盟店に臨店して行う調理指導の他、店長会議、トレーナー会議等を通じて直営店における成功事例・問題点の共有を進めることにより更なる集客力の向上を図っております。今後も加盟企業との親密なコミュニケーションを図りながら問題点の洗い出し・解消を図り、さらに、メディア戦略を強化し、ブランド認知度を向上させることで、さらなる集客・売上の向上を目指してまいります。

以上の結果、FC事業全体の売上高は9億54百万円（前年同期比3.6%増）、セグメント利益は6億59百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

当社グループの2019年6月末時点の店舗数は891店舗(直営店(国内)534店舗、直営店(海外)5店舗、FC店(国内)349店舗、FC店(海外)3店舗)となりました。ブランド別の店舗数は以下のとおりです。

	直営店 (国内)	直営店 (海外)	FC店 (国内)	FC店 (海外)	合計
まいどおおきに食堂	142	5	269	-	416
神楽食堂 串家物語	87	-	26	-	113
手作り居酒屋 かつぼうぎ	34	-	8	-	42
つるまる	50	-	7	3	60
その他	221	-	39	-	260
合計	534	5	349	3	891

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末と比較して総資産は44億26百万円増加し、261億86百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末から14億69百万円増加し、固定資産は29億57百万円増加しております。

流動資産が増加した主な理由は、借入れの実行に伴う現金及び預金の増加16億81百万円によるものであります。固定資産が増加した主な理由は新規出店に伴う有形固定資産の増加9億18百万円、無形固定資産の内、株式会社グレートイースタンの株式取得に伴うのれんの増加17億13百万円、投資その他の資産の内、敷金及び保証金の増加1億20百万円によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して44億8百万円増加し、167億3百万円となりました。これは主に借入れの実行による借入金の増加39億56百万円、長期未払金の増加1億26百万円、資産除去債務の増加1億40百万円によるものであります。

純資産につきましては、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払い等により、94億83百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローが13億58百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが31億17百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが35億47百万円の収入となり、この結果、当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して17億81百万円増加し、34億24百万円(前年同四半期連結会計期間は25億50百万円)となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは13億58百万円の収入(前年同四半期は13億74百万円の収入)となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益が6億53百万円になったことに加え、非現金支出である減価償却費が6億97百万円発生したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは31億17百万円の支出(前年同四半期は11億27百万円の支出)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出が14億90百万円、関係会社株式の取得による支出が35百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が15億89百万円発生したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは35億47百万円の収入(前年同四半期は3億74百万円の支出)となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が12億46百万円、配当金の支払いによる支出が4億71百万円発生したことに対して、借入れの実行による収入が52億円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年12月期の通期の業績予測につきましては、2019年2月14日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,921	3,602
売掛金	364	466
たな卸資産	206	183
前払費用	401	365
預け金	1,314	1,080
その他	194	174
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,403	5,873
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	14,847	16,131
減価償却累計額	△6,548	△7,235
減損損失累計額	△884	△922
建物及び構築物(純額)	7,414	7,973
工具、器具及び備品	5,180	5,493
減価償却累計額	△4,028	△4,312
減損損失累計額	△165	△175
工具、器具及び備品(純額)	985	1,005
土地	1,411	1,449
建設仮勘定	210	460
その他	277	369
減価償却累計額	△241	△281
その他(純額)	36	87
有形固定資産合計	10,057	10,976
無形固定資産		
のれん	93	1,807
その他	55	64
無形固定資産合計	148	1,871
投資その他の資産		
投資有価証券	1,041	1,066
関係会社株式	605	634
繰延税金資産	537	577
敷金及び保証金	4,146	4,267
その他	833	941
貸倒引当金	△14	△22
投資その他の資産合計	7,149	7,465
固定資産合計	17,355	20,313
資産合計	21,759	26,186

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,559	1,490
未払金	1,649	1,595
未払費用	512	513
資産除去債務	2	3
賞与引当金	66	44
株主優待引当金	91	94
未払法人税等	285	419
未払消費税等	125	215
短期借入金	100	203
1年内返済予定の長期借入金	2,045	2,617
その他	118	189
流動負債合計	6,556	7,384
固定負債		
長期借入金	4,369	7,650
リース債務	25	59
資産除去債務	1,010	1,149
預り保証金	300	300
長期未払金	-	126
繰延税金負債	32	33
固定負債合計	5,738	9,318
負債合計	12,294	16,703
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,135	2,175
資本剰余金	2,017	2,056
利益剰余金	6,283	6,171
自己株式	△876	△876
株主資本合計	9,560	9,526
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△110	△44
為替換算調整勘定	2	△7
その他の包括利益累計額合計	△108	△51
新株予約権	12	8
純資産合計	9,465	9,483
負債純資産合計	21,759	26,186

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	17,517	18,726
売上原価	6,169	6,625
売上総利益	11,347	12,100
販売費及び一般管理費	10,170	11,238
営業利益	1,177	861
営業外収益		
受取利息	2	2
賃貸収入	18	19
その他	19	15
営業外収益合計	40	37
営業外費用		
支払利息	20	23
持分法による投資損失	13	2
賃貸収入原価	13	14
その他	6	21
営業外費用合計	54	62
経常利益	1,163	836
特別利益		
受取保険金	-	9
固定資産売却益	2	-
新株予約権戻入益	1	-
特別利益合計	3	9
特別損失		
減損損失	105	84
固定資産除却損	30	26
店舗解約損	22	12
投資有価証券評価損	35	70
特別損失合計	193	192
税金等調整前四半期純利益	973	653
法人税等	377	293
四半期純利益	596	359
親会社株主に帰属する四半期純利益	596	359

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
四半期純利益	596	359
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9	66
為替換算調整勘定	△2	△6
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	△3
その他の包括利益合計	△2	56
四半期包括利益	593	416
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	593	416

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	973	653
減価償却費	643	697
貸倒引当金の増減額(△は減少)	0	7
賞与引当金の増減額(△は減少)	△23	△21
株主優待引当金の増減額(△は減少)	4	2
受取利息及び受取配当金	△7	△6
受取保険金	-	△9
支払利息	20	23
為替差損益(△は益)	-	1
店舗解約損	22	12
固定資産売却損益(△は益)	△2	-
固定資産除却損	30	26
減損損失	105	84
投資有価証券評価損益(△は益)	35	70
新株予約権戻入益	△1	-
持分法による投資損益(△は益)	13	2
売上債権の増減額(△は増加)	54	△23
たな卸資産の増減額(△は増加)	49	27
仕入債務の増減額(△は減少)	△234	△163
預け金の増減額(△は増加)	255	227
未収入金の増減額(△は増加)	17	46
立替金の増減額(△は増加)	△1	△9
未払金の増減額(△は減少)	43	△147
未払消費税等の増減額(△は減少)	△67	77
その他	△185	△135
小計	1,745	1,444
利息及び配当金の受取額	6	6
保険金の受取額	-	9
利息の支払額	△20	△24
法人税等の支払額	△357	△77
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,374	1,358

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△798	△1,490
無形固定資産の取得による支出	△5	△10
固定資産の売却による収入	9	-
固定資産の除却による支出	△17	△17
定期預金の預入による支出	△70	△70
定期預金の払戻による収入	70	170
連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出	-	△1,589
関係会社株式の取得による支出	-	△35
貸付けによる支出	△133	△30
貸付金の回収による収入	44	19
長期前払費用の取得による支出	△6	△18
敷金及び保証金の差入による支出	△206	△57
敷金及び保証金の回収による収入	87	94
その他	△101	△81
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,127	△3,117
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	100
長期借入れによる収入	1,200	5,100
長期借入金の返済による支出	△1,210	△1,246
株式の発行による収入	15	74
自己株式の取得による支出	△0	-
配当金の支払額	△372	△471
リース債務の返済による支出	△6	△8
財務活動によるキャッシュ・フロー	△374	3,547
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△133	1,781
現金及び現金同等物の期首残高	2,684	1,642
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,550	3,424

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。ただし、見積実効税率を用いて計算すると著しく合理性を欠く場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

当第2四半期連結会計期間において、株式会社グレートイースタンの発行済株式を全て取得したことにより、連結の範囲に含めております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益計算書計上額 (注2)
	直営事業	FC事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,595	921	17,517	-	17,517
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	16,595	921	17,517	-	17,517
セグメント利益	1,722	631	2,354	△1,176	1,177

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,176百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては105百万円であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	直営事業	F C 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,771	954	18,726	-	18,726
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	17,771	954	18,726	-	18,726
セグメント利益	1,510	659	2,169	△1,308	861

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,308百万円は、各報告セグメントに配分できない全社費用であります。全社費用の主なものは、提出会社の管理部門等の経費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第2四半期連結会計期間において、株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、前連結会計年度の末日と比べ、当第2四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「直営事業」セグメントにおいて1,336百万円増加しております。

なお、当該セグメント資産の金額は、取得原価の配分が完了していないため、入手可能な合理的情報に基づき、暫定的に算出された金額であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「直営事業」セグメントにおいて、当第2四半期連結累計期間に閉店の意思決定がされた店舗及び営業活動から生ずる収益が著しく低下した店舗等について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては84百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

株式会社グレートイースタンを連結子会社としたことに伴い、のれんの金額に重要な変動が生じております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間の「直営事業」セグメントにおいて1,719百万円であります。

なお、のれんの金額は、取得原価の配分が完了していないため、入手可能な合理的情報に基づき、暫定的に算出された金額であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。